

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/9/12
NAIIV	No. 15
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協) (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

主 な 内 容

全視情協 帯広大会特集

● 全視情協フォーラム	2
● 書誌データ管理システム学習会のお知らせ	3
● 特別学習会のお知らせ	3
● 分科会 第1分科会 点字情報	4
第2分科会 音声情報	5
● 全視情協フォーラム「視覚障害情報提供施設の役割・あり方」を考える 《提言》	
「視覚障害者情報提供施設の今後の役割」(中山玲子)	6
「求められるべきものは、情報提供システム相互のバリアフリーの発想」 (湯浅幸洋)	7
「情報格差の軽減と多様化するニーズへの対応に向けて」(池田敬一)	9
「これからの情報サービスのあり方について」(佐藤 徹)	10
「視覚障害情報提供施設の役割・あり方を考える」(盛田義弘)	11
● ブロック活動報告	12
● 委員会報告	18

全視情協フォーラム

- 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える -

日 時 9月26日(金) 9:00~15:00
総合司会 後藤 健市氏(北海点字図書館 副館長)
司会・進行 藤野 克己氏(視覚障害者生活情報センターぎふ 館長)
中山 十郎氏(徳島県立盲人福祉センター 所長)
記 録 三澤まりい氏(日赤北海道点字図書センター)
佐藤 裕美氏(山形県立点字図書館)

シンポジスト

公立図書館から

中山 玲子氏(視覚障害者) 日野市立中央図書館

利用者として

池田 敬一氏(視覚障害者) (株)富士通 東北海道システムエンジニアリング

湯浅 幸洋氏(視覚障害者) NEC 北海道支社

佐藤 徹氏(視覚障害者) 千歳市点字図書室

視覚障害者情報提供施設から

盛田 義弘氏 石川県視覚障害者情報文化センター 所長

助言者として

河野 康德氏 昭和女子大学 生活文化学科 教授

吉田 静慈氏 厚生省大臣官房障害保健福祉部障害福祉課 課長補佐

タイムスケジュール

9:00~10:00 第1部 諸報告
(部会、各委員会、各ブロック、第1・第2分科会、
ワークショップ等の報告)
司会：後藤健市氏

10:00~10:10 休憩

10:10~12:00 第2部 提言(1人持ち時間15分)
司会・進行：藤野克己氏、中山十郎氏
事前提出のレジュメをもとに意見発表

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:00 第3部 ディスカッション
司会・進行：藤野克己氏、中山十郎氏
第2部の提言を受けて、参加者全員による討論会

書誌データ管理システム学習会のお知らせ

- 日 時 9月25日(木) 20:00～21:30
 担 当 ネットワーク委員会
 内 容 昨年の岡山大会ではシステムのデモを行いました。今回は、統計処理と目録の印刷を加えたシステムのデモを行います。
- (1) 統計業務(受入統計・蔵書統計)
 日付を指定するだけで、統計に必要なデータをテキストファイルの形に作成します。印刷は、一太郎などのワープロソフトで編集ができます。
- (2) 図書情報作成(目録作成)
 NDC、書名などから必要なデータを取り出して目録を作成します。
 統計処理と同じようにテキストファイルに作成します。

なお、各施設への配布は12月下旬の予定です

特別学習会のお知らせ

以下の要領で特別学習会を開催します。

「DAISY録音の方法」

- 日 時 9月25日(木) 20:00～21:30
 担 当 録音委員会
 内 容 ・ 未体験施設のための説明
 昨年、一昨年の大会開催地が西日本であったため、東北、北海道の方々を中心に、初めてDAISY(PLEXTALK)を見る職員のための説明会を開きます。
- ・ DAISY配布施設からの質問
 DAISYの配布を行った施設担当者より、DAISYを実際に使用しての質問に答えます。

同時展示 PLEXTALK

分科会

- メインテーマ：視覚障害者情報ネットワーク・システム -

9月25日(木) 13:40 ~ 17:00

第1分科会(点字情報)

テーマ 「利用者のニーズに応える情報ネットワーク

点字情報からの拡がりを目指して」

趣 旨 点字情報の世界は、パソコン点訳によるデータ化が実現してから急速に進展し、「てんやく広場」のネットワークによって視覚障害者の読書の自由は大きく飛躍した。「ノーマネット」も含めて、従来の点字図書館の枠を越えた全国のサービス網の現状と課題を探る。

目 的 全国点字図書館実態調査の報告、および代表的な二つのネットワーク「てんやく広場」と「ノーマネット」の現状と課題を具体的に把握する。各情報提供施設によって利用形態にかなりの違いがあることを明らかにするとともに、それぞれの施設の実情に合わせたネットワーク利用の推進を計る。

司会・進行 加藤 俊和氏(日本ライトハウス盲人情報文化センター)

記 録 染谷 洋子氏(カトリック点字図書館)

タイムスケジュール

13:40 ~ 15:00 第1部 「情報サービスとネットワークの現状と課題を探る」

(1) 「日本の点字図書館 / 全国点字図書館実態調査」報告
報告 工藤孝雄氏(全視情協サービス委員会)

(2) 「てんやく広場」と視覚障害者情報提供施設の現状から
報告 西田洋一氏(熊本県点字図書館 館長)
千田米蔵氏(千葉点字図書館 館長)

・点字から音訳、そして利用者サービスと進む情報サービス業務の現状の中で、ネットワークとしての「広場」を十分に生かしていくためには、何が問題となっているのかを探る。

(3) 「ノーマネット」が目指す情報サービス

「ノーマネット」とは?、その利用法と将来

講演 徳澤 實氏(日本障害者リハビリテーション協会 情報相談室長)

・ノーマネットについてのわかりやすい解説と、将来の可能性や今後の取り組みについて伺う。

15:00 ~ 15:20 休憩

15:20 ~ 17:00 第2部 シンポジウム「これからの情報ネットワークの利用を考える」

徳澤實氏、西田洋一氏、千田米蔵氏、工藤孝雄氏

第1部の報告・講演を踏まえて、情報ネットワークの利用とこれからの情報サービスのあり方を、フロアとともに討議する。

第2分科会（音声情報）

- テーマ 「デジタル録音図書システムと集中処理センター構想」
- 趣旨 ー 昨年の名古屋大会、昨年の岡山大会に紹介をしているDAISY、PLEXTALKを用いたデジタル録音図書システムの製作実施に向けて、より具体的な方向を検討し、録音担当者の共通認識とする。
- 目的 調査の結果を中心にして、録音担当職員が置かれている状況を、経済的、人的面で確認し、「製作処理センター」の是非、および設立に向けての方向を検討する。
- また個々の施設がデジタル化の推進を行うにあたり、人的対応のためのボランティア活用を名古屋ライトハウス盲人情報文化センターの事例をもとに検討をおこなう。
- 司会・進行 恵美三紀子氏（JBS日本福祉放送 代表）
- 記録 矢口 町子氏（茨城県立点字図書館）

タイムスケジュール

- 13:40～14:00 DAISYの現状とプロフェッショナル・バージョンの開発
講師：シナノケンシ株式会社 西澤達夫氏
- 14:00～14:20 PLEXTALKのフィールドテストを終えて
講師：シナノケンシ株式会社 西澤達夫氏
- 14:20～16:00 録音図書実態調査から
・実態調査報告および分析（14:20～15:00）
報告：日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井晶人氏
- 休憩（15:00～15:20） -
- ・ディスカッション（15:20～16:00）
「調査結果を基にして今後考えること」
- 16:00～17:00 デジタル化のためのボランティア養成
報告：名古屋ライトハウス盲人情報文化センター 河合和美氏

全視情協フォーラム 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える 提 言

26日の全視情協フォーラムでシンポジストとしてご出席いただく方々に、発言要旨をまとめていただきました。発題者の皆様にはご多忙の中、ありがとうございました。当日の盛り多い討論を期待したいと思います。

視覚障害者情報提供施設の今後の役割

日野市立中央図書館
中山 玲子

1 プロフィール

視覚障害（点字使用者）として、1995年4月より、東京の日野市立中央図書館で障害者サービスを担当している。仕事の中でも、また、ボランティア活動としても、文字情報に対して障害を持っている人のパソコン利用の可能性を探っている。個人的にもてんやぐ広場をはじめとする様々なパソコン通信や、テキストベースでのインターネット、メーリングリストを通しての情報収集が生活の中で欠かせないものとなっている。文字情報障害者の一人として、プライベートな部分に関わる資料などは特に自由に独力でアクセスできる環境がもっと整備されてほしいと思う。特に、新聞をはじめとするパソコン通信上のデータベースは大変必要とするものであるにも関わらず、料金負担が多く、自由に利用することはなかなかできない。書店で気ままな立ち読みができる環境、私もそんな体験をしてみたい一人である。

2 視覚障害者の生活に必要な情報の保障

「点字図書館」が「視覚障害者情報提供施設」と名称を変更し、また、公共図書館での障害者サービス（点訳図書・録音図書・拡大写本・さわる絵本・布の絵本の作成や貸し出し、プライベートサービス、対面朗読、障害者用図書の購入等）が僅かずつではあるが進んでいる今、私は「情報保障」という意味で、視覚障害者情報提供施設と公共図書館、学校図書館がそれぞれの役割を持ってサービスを行うことが望ましいと考える。また、相互貸借以外でも、もっと今後の情報提供サービスについて意見交換できる場も必要である。

私が視覚障害者情報提供施設に求めるものは、視覚障害者の生活に関わる情報提供サービスの推進である。

（1）企業の商品カタログや広告の情報を視覚障害者が読める形式に資料変換（点訳・

音訳・拡大)するサービス：このサービスを行うに当たって、D A I S Yの利用も推進できると思う。

(2) パソコン通信を使った情報提供：現在のてんやく広場は視覚障害者の読書のプライバシーと自由を保障しているすばらしい財産だと思う。このシステムをこれからも存続させ、視覚障害者と資料変換者、視覚障害者情報提供施設とのネットワークをさらに深めることが大切である。また、このようなパソコン通信による情報提供を行う場合には、ユーザーサポートの充実も必要である。

(3) 視覚障害児へのサービス：拡大教科書の製作。

3 公共図書館との協力

(1) 公共図書館における録音図書の著作権処理の問題を改善すると共に、視覚障害者情報提供施設の録音図書も公共図書館への相互貸借を利用してあらゆる文字情報障害者に貸し出せるよう法的な位置づけを確立すること

(2) E-textによる図書資料の提供についての検討(デジタルライブラリー構想を共に考える)：フリーアクセスについて、ユーザーサポートについて、有線送信権について、機器の購入補助について

(3) D A I S Yを全ての録音図書ユーザーの読書環境改善にいかに関結するかを共に考える

4 構築していただきたいノウハウ

(1) 弱視者に対する情報提供

(2) 視覚障害者団体に関する情報の提供

(3) それぞれの地域の公共図書館サービスや点訳・音訳・拡大写本ボランティアに関する情報提供

求められるべきものは 情報提供システム相互のバリアフリーの発想

NEC北海道支社 クライアントサーバ販売部
湯浅 幸洋

1 なぜバリアフリーなのか?

・現在はスタンダードが存在しない時代

点字 方言だらけ

支援機器開発 省庁、メーカーによってバラバラ

情報ネットワーク 省庁、団体によってバラバラ

例)

支援機器 : 95READER、CVSR98、V - Navi

情報ネットワーク : ノーマネット、盲学校情報ネットワーク、てんやく広場

それぞれが、自己主張。

Aの立場から見るとBの立場は認めがたい。

お互いに障壁(バリア)を作っていないか?

- ・誰のための情報提供サービスなのか?

各省庁? 各団体?

エンドユーザには関係のないこと

2 情報提供施設に求められるもの

- ・特定組織・団体の利害から離れること

エンドユーザは障害者個々人

最適なパーソナライズのためには、オープンなスタンスが必要

- ・アイテムを評価・選別できる確かな目を持つこと

客観的な評価基準の策定

相互交流による、タイムリーな情報リフレッシュ

エンドユーザからの評価を大切に

- ・常識にとらわれない広い視野

畑違いのものでも、使えるものはないか?

開発コンセプトと違う使い方はできないか?

例)

D A I S Y

書籍の朗読ではなく、カタログショッピング、音声辞書、電話帳として使えないか?

国会図書館 電子化プロジェクト

電子テキスト化してしまえば、機械朗読、拡大写本、機械点訳、何にでも応用可能。

3 まとめ

- ・情報提供施設の目的はあくまでも視覚障害者の情報ハンディを解消・軽減すること。
- ・情報発信基地になる努力が必要
- ・情報発信のためには情報収集が必須

常に柔軟な発想を忘れずに

情報格差の軽減と 多様化するニーズへの対応に向けて

(株)富士通東北北海道システムエンジニアリング
池田 敬一

近年、我が国においてはテレビやラジオなどのマスメディアに加え、コンピュータネットワークの発達と拡大によって地域による情報の格差は急速に小さくなってきています。特にインターネットの普及は地域や時間の壁をなくし、職場や自宅にしながら日本国内はもとより、世界中の情報にアクセスする手段を与えてくれました。こうした環境の中で、私達視覚障害を持つ者にとっても「てんやく広場」や「盲学校点字情報ネットワーク」などのコンピュータネットワーク、JBS日本福祉放送のような放送メディアが次々と新しい視覚障害に関する情報を提供してくれています。

こうしたメディアを利用することで、私達は東京にいても、帯広にいても同じ情報を同時に入手することが可能となっています。

こうしたことから、視覚障害の世界においても、地域による情報の格差は極めて小さなものになっていますが、逆に地域にかかわらず、情報にアクセスする手段を持つ者と持たない者の格差は、これまでよりもはるかに大きなものとなっているようです。つまり、帯広にいてもパソコン通信や有線放送、あるいは衛星放送の受信設備を持つことで、東京や大阪にいる人達と同様の情報にアクセスすることができますが、たとえ東京にいても、そうした機器や設備が利用できなければ、あるいは利用していなければ、有効な情報にアクセスすることは困難となります。

また、怪我や病気で中途失明された方々の多くは、視覚障害に関してほとんど知識を持っておらず、自分達にとって有効な情報がどこにいけば手にはいるのか、あるいはどこに聞けば判るのかといったことがわからずに、たいへん苦勞しているケースも少なくありません。

したがって、これからの情報障害への対応はこれまでのように情報提供のメディアや提供する情報を増やしていくということだけでなく、既存の情報にアクセスすることが困難な人々への対応、即ち、情報へのアクセス手段のサポートや、情報にアクセスするための情報の提供といったことが重要な要素となっていくものと思われます。

また、もう一つここで提言しておきたいことは、多様化するユーザーニーズへの対応ということです。中途失明者の増加や生活スタイルの変化に伴い、視覚障害者が必要とする情報も多様化しています。

実際には以前から様々なニーズは存在していたわけですが、情報提供のための手段やマンパワーの絶対的な不足により、個々のニーズに対応することは困難でした。

しかしながら、前述のように、さまざまなネットワークインフラを利用することで、限られたマンパワーや情報リソースを有効に活用し、効率よく情報を流通させることが可能となった現在、多様なユーザーニーズに応えることも決して困難なことではなくなったかと思われます。

全国レベルでのグローバルな情報はもとより、それぞれの地域ごとのローカルな情報、あるいはそれぞれの専門分野での情報もネットワークを利用することで効率よく、また、容易に受発信することができるようになっていきます。

インターネットのWWWは、まさにそうした情報のつぼとも言えますが、ただ単にさまざまな情報が存在するというだけでは、ユーザーにとっては利用しやすいとは言えません。ちょうど子供がおもちゃ箱をひっくり返して、遊びたいおもちゃを探し出すようなもので、本当に欲しいものを見つけ出すには相当の労力と時間が必要になります。

ここで必要となるのが、それらの情報を収集し、整理し、分類し、再配布する機能を持った機関です。幸い、点字図書館はこれまでも、図書に関してそうした役割を果たしてきました。したがって、これまで、点字図書、あるいは録音図書という形で扱ってきた情報を更に拡大し、視覚障害者にとって有効な情報全般についてその収集、整理、分類、保存、再配布を行うことで、多様化している視覚障害者のニーズに応えていくことができるのではないのでしょうか。

もちろん、個々の点字図書館がそうした情報を広範囲にわたって収集することは困難でしょうし、分類、保存することも難しいかと思えます。

そこで、先ほどより述べてきたように、ネットワークとコンピュータが大きな役割を担うこととなります。

各館ごとにそれぞれの専門分野を定め、それぞれが自分の所の受け持ち分野に関して情報の収集や整理を行い、その結果をネットワークを用いて全体で共有することで、個々の部署の負担が軽減されるだけでなく、さまざまな分野について、分類・整理された情報を、逐次、ユーザーに提供することが可能となるのです。

また、各地の点字図書館がそれぞれに地域性をいかした情報を提供することで、ユーザーにはよりきめ細かな情報を提供することも可能となります。

更には、各種の行政機関や盲学校、視覚障害者のリハビリテーション施設などとも連携することで、情報の量、質ともに豊かなものにしていくことが可能となるでしょう。

コンピュータ、そしてそれらを結ぶネットワークによって私達視覚障害者の情報環境も大きく変わりつつあります。そうした情報環境が一人でも多くの視覚障害者の仕事や教育、生活や娯楽に生かされていくことを心より期待しています。

これからの情報サービスのあり方について

千歳市点字図書室
佐藤 徹

1 子どもから老人までの幅広い層が利用できる資料作りについて

点字図書館の場合、資料の製作にかたよりが見られ、成人向け資料のうち、文学関係と自然科学関係については、点字・録音ともかなり整備されていますが、その他については蔵書が少ないのが特徴なので、これからは幼児向け資料や小中学生向け資料まで幅広い資料の製作が必要と思われます。

2 情報の共有化について

これまでの「点字図書館」という位置づけから「視覚障害者情報提供施設」に代わったことで、施設の果たすべき役割も大きくなり、これまでとは違った形で運営しなければならぬと思われまます。

まず第1に考えられるのは、身近な生活情報などから始まり、専門情報までと、そのサービス範囲は広まるのではないかと考えられます。そこで必要になってくるのは情報の共有化ではないかと思えます。そこで必要なのは、全国の各施設のネットワーク化ではないでしょうか。

第2に、情報収集の分担化。これは情報収集のガイドラインを設定し、各施設は割り当てられた情報を収集し、蓄積するというものです。個々の施設独自では、利用者のニーズには応じきれないと考えられます。

3 弱視者の情報収集環境の整備

弱視者の読書環境の整備。拡大文字による資料の製作やその他の方法による資料の製作などもこれからは重要な部分ではないかと考えます。

「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える

石川県視覚障害者情報文化センター
所 長 盛田 義弘

- 1 視覚障害者に対する情報提供の視点を省みる。
- 2 提供する情報は、多様化、専門化かつ高度化に対応できるよう努める。
- 3 情報は、より確かなものを迅速に届ける。
- 4 情報の提供は、さまざまな手段（ネットワーク）を考え、活用する。
- 5 情報提供施設として、情報源情報提供の役割も果たす。
- 6 視覚障害者情報提供施設の種別は、点字図書館と点字の出版施設とされているが、点字図書館については、社会の変化に対応して、施設の設備および運営基準を見直してほしい。
- 7 運営基準の見直しを厚生省に働きかける前に、本協議会で試案を策定する。
（平成10年～11年の2か年計画）
- 8 試案策定にあたり、次の事項を配慮したい。
 - （1）地域および視覚障害者の実態
 - （2）視覚障害者の需要、特に学習（教育）的需要
 - （3）策定する基準では、施設・設備、職員配置ならびに事業規模および内容によって、おおむね3つのタイプに区分し、示してはどうか。
- 9 国の厳しい財政事情のもとで、負担金（点字図書館等事務費）の見直しが行われ、常勤職員5人を超える設置につき削減する傾向にあるが、一律削減は極めて冒険である。

ブロック活動報告

(平成9年度4～8月期)

東北・新潟・北海道ブロック

秋田県点字図書館

館長 伊藤 繁

「第27回東北・新潟・北海道ブロック点字図書館連絡協議会」

8月28日(木)～29日(金)、秋田市において第27回東北・新潟・北海道点字図書館連絡協議会が、「わかちあおう 文字と光と喜びをー私たちは目の情報配達人ー」のスローガンのもとに図書館職員、ボランティア300名ほどが出席し、開催されました。今年、ボランティアのレベルアップに主眼を置いた運営として、各部会にテーマを設けて、館長部会、図書館部会、点訳部会、音訳部会、それに新しく音訳校正部会を設け、活発な意見交換がなされました。点訳部会には、日本点字委員会副会長の小林一弘氏、音訳部会には名古屋盲人情報文化センター音訳指導員の河合和美氏、音訳校正部会には地元の音訳校正ボランティアの佐藤勝見氏を助言者に迎え、ご指導いただきました。

例年、各部会ではいろいろな問題が討議されますが、結論がでないまま終了しており、毎年同じことの繰り返しであるという意見があり、当番県としてはそれを脱皮し、問題の1、2点くらいは結論を出し、次の活動のステップにしたいということから、テーマを設定し討議をしたもので、その結果、有意義な部会内容にすることができました。

このような新たなる挑戦は、視覚障害者へのサービス向上と同時に、情報提供施設としてのあり方を参加者一人一人に問題提起した部会ではなかったかと思えます。

来年度は、釧路市でブロック会議が開催される予定になっておりますので、本ブロックの活動の広まりが、ますます深まっていくものと期待されます。

関東ブロック

カトリック点字図書館

館長 橋本 宗明

1. 平成9年度定期総会

日時 平成9年5月14日(水)

会場 カトリック点字図書館

- 内容 (1)平成8年度事業報告・決算の承認。
(2)平成9年度事業計画・予算の決定。
(3)平成9年・10年度役員選出。下記(資料)参照
(4)「横浜市社協情報センター」の退会を確認。(現在19施設)。

2. 平成9年度春期研修会

日時 平成9年5月14日(水)

会場 カトリック点字図書館

内容 (1) 講演 テーマ 「読書環境 過去・現在・未来」
講師 橋本宗明(カトリック点字図書館長)
(2) 施設見学

(資料) 役員名簿

理事(五十音順)

青柳 仁(茨城県立点字図書館)

小口継明(神奈川県ライトセンター)

橋本宗明(カトリック点字図書館)

花形幹雄(山梨ライトハウス盲人福祉センター点字図書館)

森島康弘(栃木県身体障害者福祉会館)

星田一雄(川崎市盲人図書館)

幹事

田中徹二(日本点字図書館)

中部ブロック

視覚障害者生活情報センターぎふ
館長 藤野 克己

1. 1997年度事業計画

- (1) 館長会議並びに職員研修会の開催
- (2) 職員研修会並びにボランティア研修の集いの開催
- (3) 第4回パソコン基礎研修会の開催
- (4) 「てんやく広場」への取り組み
- (5) 録音図書製作着手情報の交換
- (6) 「中部通信」の発行
- (7) 「情報提供施設のあり方」策定委員会(仮称)の開催

2. 今までに実施したこと

(1) 館長会議並びに職員研修会の開催

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 平成9年7月17日(木)～18日(金) |
| 主 管 | 富山県視覚障害者福祉センター |
| 会 場 | 呉羽ハイツ |
| 参加者 | 12館・32名 |
| 内 容 | 1. 館長会議(12名) <ul style="list-style-type: none">・1996年度事業報告・決算の承認・1997年度事業計画・予算の決定・春季研修会及び秋季会議のローテーションの決定・情報交換 2. 点字担当職員研修会(9名) <ul style="list-style-type: none">・点訳講習会(初級)のカリキュラムについての情報交換 3. サービス担当職員研修会(11名) <ul style="list-style-type: none">・郵便法・著作権法についての相互研修 4. 合同研修(32名) <ul style="list-style-type: none">・点字図書館業務の今後の展開について、各館の発表と協議 |

(2) 職員研修会並びにボランティア研修の集い

- | | |
|-----|---|
| 期 日 | 平成9年6月27日(金) |
| 主 管 | 視覚障害者生活情報センターぎふ |
| 会 場 | 岐阜市婦人会館、視覚障害者生活情報センターぎふ |
| 参加者 | 13館・125名 |
| 内 容 | 1. 録音担当職員・音訳ボランティア研修 <ul style="list-style-type: none">・講演「音訳のレベルアップ」 2. 録音担当職員研修会(14名) <ul style="list-style-type: none">・「レベル向上を図るには」 3. 音訳ボランティア研修会 <ul style="list-style-type: none">・活動者のレベル向上を図るには(28名)・読みの基本について(27名) 4. 点訳ボランティア(56名) <ul style="list-style-type: none">・複合名詞の切れ続き |

近畿ブロック

日本ライトハウス盲人情報文化センター
村井 晶人

近畿視情協 '97年度活動経緯

(48館加盟：新規加盟館2館 点字図書館13館 公共図書館35館加盟)

録音製作委員会活動経緯

	日付	活動内容	会場
1回	4/23 (水)	1. 情報交換 2. 公共図書館製作アンケートの分析 3. '97年度委員会活動の検討	盲人情報文化センター
2回	6/25 (水)	1. 情報交換 2. アンケートの分析、まとめ(最終回) 3. 7月の職員研修会のレポート 4. 秋のボランティアグループリーダー懇談会の検討	盲人情報文化センター
3回	9/3 (水)	1. 情報交換 2. 夏期職員研修会の報告 3. アンケートの分析の最終確認 4. 秋のボランティアグループリーダー懇談会の具体化	盲人情報文化センター

サービス委員会活動経緯

	日付	活動内容	会場
1回	5/7 (水)	1. 情報交換 2. オリエンテーション 近畿視情協の組織と活動(事務局長) 視覚障害者の生活と読書環境(盲人情報文化センター 岩井和彦氏) 3. その他事務連絡	神戸市立点字図書館
2回	7/9 (水)	1. 情報交換 2. 点字雑誌保存の調査発表 3. 「てんやく広場」のデモンストレーション 4. 「てんやく広場」の問題点解決 5. その他事務連絡	京都ライトハウス
3回	9/10 (水)	1. 情報交換 2. 学習会 資料のプライベート製作について 重複製作の問題について 3. その他事務連絡 点字雑誌の分担保存についてなど	枚方市立楠葉図書館

夏期研修会 7月30日～31日 和歌山市

図書館サービス委員会平成8年度活動報告および平成9年度事業計画説明
アンケート集計の結果から（報告及び分析）
録音製作委員会平成8年度報告及び平成9年度事業計画説明
製作アンケートの結果から（報告及び分析）
公共図書館と点字図書館のより具体的な相互協力を考える

中四国ブロック

ライトハウス・ライブラリー
館長 金津 和栄

平成9年度中国四国点字図書館連絡協議会

総会・施設長会議・職員研修会

日時 平成9年6月5日（木）～6日（金）

主管 岡山県視聴覚障害者福祉センター

会場 メルパルク岡山

内容 (1) 施設長会議・総会

- 1 平成8年度事業報告・決算報告
- 2 平成9年度事業計画案・予算案
- 3 デジタル録音への取り組みについて
- 4 市町村社協等の朗読入門講座のテキストについて

(2) 職員研修

- 1 朗読ボランティア育成について（情報交換）
選考基準・初級講習内容・修了基準
初級修了者のフォロー・定着率・実働率
- 2 講義 「録音製作とデジタル化について」

講師 日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井晶人氏

(3) 講演 「男女共同参画社会における実現に向けて」

講師 岡山県女性政策室長

【今後の予定】

1. てんやく広場のブロック会議

日時 未定

主管 岡山県視聴覚障害者福祉センター

2. 中国四国点字図書館連絡会議（第2回）役員会

九州ブロック

熊本県点字図書館

館長 西田 洋一

九州ブロックでは、現在13施設が参加する組織として運営、活動を行なっております。

平成9年度（4～8月期）における活動としましては、去る4月に開催した理事会において、「てんやく広場」の広場ブロック会議を発足させたことです。

広場のあり方、組織の再編が議論される中での発足は、重要な意義をもち、1回目の会議から真剣な雰囲気の中で、中央情勢報告をはじめ、現状を分析し、今後の展望を討議する会議となりました。

7月に開催された、岐阜での広場研修会、東京での代表者会議等で既にご承知のように、年度半ばにしての執行部の交代という事態を今後どう捕らえていくか。日々の業務の中で、各施設が一様に注目し、見守っているところです。新役員体制が発足いたしました情報を受け、各施設ができる限りの協力体制で取り組んでいるところです。

9月には、福岡県（参加3施設）の主幹で、第11回九州点字図書館大会が、ボランティア、職員、関係者400名を越える参加者を得て、たいへん盛大な内に、有意義に開催されました。奉仕者へ日ごろの活動への感謝と、それぞれの立場での研修を行いました。

情報のデジタル化がいよいよ進む今日、点字図書館の現状を分析し、刻々と代わりゆく視覚障害者と情報の問題、そして情報提供施設としてのあり方など、有意義な研修を積んだ大会でした。

近況といたしましては、川越会長を長崎県へお招きして、平成10年度全視情協大会の会場、日程、内容について検討をし、準備を進めているところでございます。異国情緒あふれる歴史とロマンの地、長崎県に大勢の方々のご参加を得て、有意義な大会が開催できますよう皆様をお待ちいたしております。

委員会報告

(平成9年度4～8月期)

点訳委員会

1. 委員会開催状況

- | | |
|----------|---|
| 4月16日 | 関東地区小委員会 |
| | 議題 平成9年度点字指導員講習会における点訳問題の検討
(1) 事前に準備した点訳問題の検討と決定
(2) 提出された点訳課題の検討の仕方について |
| 4月23、24日 | 議題 1. 平成9年度点字指導員講習会について
(1) 開催要項の決定
(2) 点訳課題の検討
(3) 要項発送・申し込み受付・受講者決定までの作業分担
2. 「点訳問題集 例文編」発行について
・発行までの作業の最終確認
3. その他
(1) 今年度のメンバー確認
(2) 今年度の事業計画
・「点字指導員講習会」の開催
・「校正問題集」の発行 |
| 6月4日 | 中部地区小委員会 |
| | 議題 1. 平成9年度点字指導員講習会における指導カリキュラムの検討
2. 平成9年度点字指導員講習会受講者決定 |
| 7月23～25日 | 議題 1. 平成9年度点字指導員講習会について
(1) 受講者の確認
(2) 講師の確認
(3) スタッフの役割・作業分担
(4) グループ学習の内容・担当者決定
2. 「点訳問題集 例文編」について
3. 第23回全国視覚障害者情報提供施設大会 第1分科会について |
| 8月27～29日 | 「平成9年度点字指導員講習会」開催
会場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)東京都千代田区 |

2. 平成9年度点字指導員講習会

8月27日～29日の3日間にわたり、平成9年度点字指導員講習会（点字指導員研修会）を東京・アルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催した。定員50名のところ100名の申し込みがあったため、検討の結果65名の受講者を決定した。基準は（1）全視情協加施設の職員（2）第1回から11回までの点字指導員資格認定講習会において資格を取得した者とした。決定者には4種の「課題文」を送付し、期日までに提出することを受講の条件としたが、最終的には63名の決定となった。内訳は点字図書館等の職員33名、盲学校職員5名、ボランティア25名だった。公平を期すために、取りやめた2名分の補充は行わなかった。全講義を受講した参加者に修了証を発行した。

事前に提出してもらった「課題文」の内容や、グループ学習のやり方など、初めての試みの多かった講習会だが、参加者に記入してもらったアンケート等を参考に今後の講習会のあり方を考えていきたい。

3. 「点訳問題集 例文編」等の発行

94年度から作業を続けていた例文編がようやく発行のはこびとなった。内容は、今までの点字指導員資格認定講習会の課題文や試験問題をまとめたもので、例文30種が収められている。問題集（墨字版）と解答集（点字版）のほか、録音版の発行も予定されているが、発行日は未定。取扱いは、名古屋ライトハウス名古屋盲人情報文化センター。

「校正問題集」の編集作業は、「点訳問題集 例文編」の発行や点字指導員講習会開催のため中断していたが、今秋から作業を再開する予定。

サービス委員会

【活動内容】

- 1 第15回全国点字図書館実態調査
- 2 上記調査の集計・分析及び報告書作成
- 3 「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」編集・発行作業
- 4 点字図書館サービスの見直しの検討（標準化について）

上記4項目について以下の日程で活動した。

第1回サービス委員会 97年5月27日～28日（日本点字図書館）

内容：前年度の反省、新年度の活動内容・予定、第15回実態調査アンケート項目の見直し・検討、本年度調査の作業日程・役割分担

第2回サービス委員会 96年7月22日～23日（日本点字図書館）

内容：不明点・問題点等の相互確認・検討、集計作業の相互確認・検討

実態調査について

1. 昨年度の委員より新委員に対し「日本の点字図書館」実態調査の経過について説明を行なった。
2. 「15回調査」項目検討
 - (1) 点字図書館から視覚障害者情報提供施設に変わったことからくる用語の訂正について、ならびに報告書のタイトルなど検討する。
 - (2) 調査項目については変更しない。
 - (3) 調査項目については基本的に変更がないのでメインタイトルは従来どおりとし、サブタイトルに「視覚障害者情報提供施設」の名称を入れる。「視覚障害者情報提供施設」に焦点をあてた調査項目を設定した時点で「視覚障害者情報提供施設1」とする。

作業日程

- 1 調査票発送 6月第1週
- 2 調査票回収 6月末
- 3 回収後第1回の督促締切 7月10日FAXで請求
第2回督促締切 7月15日

回収状況 91施設配布 91施設回収

現在、不明点の確認中。各施設への問い合わせを8月末までとし、修正した各データを各委員に9月15日までに送付の予定。

第3回委員会は、10月14～15日の予定で、作成した分析表を持ち寄り、1回目の検討を行う。

録音委員会

第1回班合同委員会

5月15日(木)～16日(金) 日本点字図書館

【音訳指導員資格認定講習班】

1. 認定講習会の内容検討
カリキュラム13単位を8単位とし1年課程とする
2. 日程表作成
3. 認定講習会開催地についての検討
受講者を考えるとブロック単位で開催地を移動すべき
4. 委員の任期についての検討
移動に合わせて委員の交代を考えた方がよいのでは

【デジタル録音 調査・推進班】

DAISYの配布についての検討

- ・ 配布条件を提示し、配布先を決定する
- ・ 対象としては全視情協加盟施設
- ・ 提供形態はフロッピーディスク
- ・ マニュアルはシナノケンシ社・田中氏作成の日本語簡易マニュアル、それにインストールの方法
- ・ サポートは今回の配布に関しては行わない（帯広大会でまとめて質問に答える）

第2回音訳指導員資格認定講習班 班会議

8月8日（金）～9日（土） 名古屋ライトハウス

1. 委員長交代に伴う活動方針の確認
2. 認定講習会のあり方についての再検討
認定制度と認定結果後の活動を考えた場合、より実際的な講習内容が必要。
（2泊3日では実際の力とならない）

ネットワーク委員会

【第1回ネットワーク委員会】 6月30日（月） 日本点字図書館

書誌データ管理システムの統計処理の確認のため、サービス委員会から小野俊己委員長と工藤孝雄委員、日本ライトハウス盲人情報文化センターから村井晶人氏に出席を求めた。

会議内容は以下の通り。

- 1 書誌データ管理システムの進捗状況
当初予定より半年遅れている
今後2ヶ月程度で統計部分まで含めて完成させる予定
- 2 書誌データ管理システムの統計処理について
サービス委員会が実施している実態調査の項目との関連を検討した。
システム導入施設が業務に使った結果の数字（統計値）データをシステムから取り出しまとめることにより、実態調査に活用する。
現在のシステムは書誌データ処理が中心となっているが、第2期の貸出システムの開発についてはサービス委員会と協議を行いながら開発を進める。

【書誌データ管理システムの現在の状況と今後の予定】

昨年、岡山大会においてシステムのデモを行いましたが、その後、配布予定が大幅に遅れ、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

帯広大会では、統計処理と目録の印刷を加えたシステムのデモを行います。

各施設への配布は、12月下旬の予定です。

今後は、貸出業務や利用者情報などの開発にはいる予定です。

第23回 全国視覚障害者情報提供施設大会 日程

9月24日(水)	
13:00~17:00	運営委員会
9月25日(木)	
10:00~12:00	施設長会議
12:00~13:00	受付
13:00~13:40	開会式(開会の辞、歓迎の辞、感謝状贈呈、オリエンテーション)
13:40~17:00	分科会 テーマ:視覚障害者情報ネットワークシステム 第1分科会 点字情報 第2分科会 音声情報
17:00~18:00	休憩・チェックイン
18:00~20:00	夕食・懇親会
20:00~21:30	書誌データ管理システム学習会(自由参加) 特別学習会「DAISY録音の方法」(自由参加)
9月26日(金)	
7:00~8:00	朝食
9:00~10:00	全視情協フォーラム 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える 第1部 部会、各委員会、各ブロック活動状況、各分科会、ワークショップ等の報告
10:00~10:10	休憩
10:10~12:00	全視情協フォーラム 第2部 提言
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	全視情協フォーラム 第3部 ディスカッション
15:00~15:20	閉会式(閉会あいさつ、次年度開催地あいさつ)
16:00~18:00	自主参加プログラム「技術入門講座」 1 パソコン入門 2 マルチメディア入門
18:00~19:00	夕食
19:00~21:00	「技術入門講座」再開

会 場 北海道ホテル
〒080 帯広市西7条南19-1
TEL 0155-21-0001 FAX 0155-25-3721

大会事務局 北海点字図書館
〒080 帯広市東2条南11-3
TEL 0155-23-5886 FAX 0155-24-6098